

# 令和8年度 小中一貫教育 甲ノ原グループ校

甲ノ原中学校  
清水小学校  
中野北小学校

## 1 グループにおける「9年間で育てたい児童・生徒像」及び「義務教育修了段階において育成すべき生徒像」

- ①地域を愛し、地域に根付いた児童・生徒の育成
- ②義務教育卒業時に、社会的常識や礼儀・マナー、多様な社会への対応力を身に付けた児童・生徒の育成

## 2 児童・生徒が交流する活動

- ①引き取り訓練
- ②地域と連携した防災訓練

## 3 「学力定着プロジェクトチーム」の取り組み

- ①各発達段階に応じて基礎的・基本的な学習内容の習得状況を調査し、習熟度別学習教材を提供  
※小・中学校の教員間で情報交換し、個々の児童・生徒の学習内容の習得状況を把握する。
- ②小学校の授業参観をし、児童の習熟度を知る。
- ③各学校にて、学力向上支援：自習室、補充、質問教室、家庭学習の定着に取り組み、補習教室等で支援し合う。

## 主とするテーマ「発達段階に応じた基礎的・基本的な学習内容の習得」



改訂版 生徒指導提要では、生徒指導の意義として次のように述べている。

「生徒指導とは、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動のこと。そして、その目的としては児童生徒自ら現在および将来における自己実現を図っていくための自己指導能力の育成を目指す。」と示されている。したがって、生徒指導は学校の教育目標を達成するうえで、重要な機能を果たすもので、学習指導と並んで学校教育において重要な意義を持っている。このような意味からも、小中学校9年間の学びと育ちをつなぐ、小中一貫教育の実践は、小中学校間でのスムーズなつながりを実現するとともに、児童生徒の豊かな心の成長、さらには、いわゆる中1ギャップの解消など、生徒指導の目的を達成する有効な手立てとなっていることが分かる。

そのため甲ノ原グループ校では生活指導に加え特別支援の観点で家庭環境や学習習慣を見直し、それによって家庭での学習環境が改善されたり、学習時間が確保できたりすると考え、最低限の生活環境を確保したうえで基礎学力の定着につなげる取組を行うこととした。

5つ(国語・算数/数学・英語・特別支援・生活指導)の<学力向上プロジェクトチーム>を設置し、国語・算数/数学・英語分科会では直接児童生徒に関わる教科指導方法を検討・共有したり、夏休みの補習教室の企画調整を行ったりする。特別支援・生活分科会では教科学習をさせるための学習環境・生活習慣の基盤を見つめる計画実施をする。今年度は昨年度の取組をさらに深化していきたい。

①令和8年度 キャリア教育全体計画 八王子市立中野北小学校

甲ノ原地区義務教育9年間を通じたキャリア教育全体目標	地域と歴史に学び、新たな価値を創造する児童・生徒の育成						
小学校段階で育成すべきキャリア教育全体目標	児童が目標を設定し、その願いや希望がかなえられるように支援していく学校 児童が目標に向かって頑張れる、教育現場の賑わった学校						
育成すべき資質能力(基礎的・汎用的能力)							
A 人間関係形成・社会形成能力	B 自己管理・自己理解能力	C 課題対応能力	D キャリアプランニング能力				
・他者の個性を理解・尊重する力 ・他者にほたさかける力 ・コミュニケーションスキル ・チームワーク ・折り合いをつける力 ・リーダーシップ	・自己理解 ・前向きに考える力 ・自己の内発的動機付け ・粘り強さ ・ストレスマネジメント	・情報の理解・選択・処理等の力 ・原因の追究 ・課題発見の力 ・計画・立案する力 ・実行力 ・自己を振り返り、よりよく改善する力	・学ぶこと・働くことの意義や役割の理解 ・多様性の理解 ・将来設計				
学年	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	中学校
重点目標	・思いやりの気持ちもち、相手の立場に立って考えを述べ、行動しようとする。 ・自分の良さを見付けたり、友だちの良さを認め、助ましかったりすることができる。	・解決方法や手順を選択して活動をするすることができる。 ・自分の良さを見付けたり、友だちの良さを認め、助ましかったりすることができる。	・解決方法や手順を選択して活動をするすることができる。 ・自分の良さを見付けたり、友だちの良さを認め、助ましかったりすることができる。	・自ら自己課題の解決を求め、解決の成果を基に、新たな課題を設定して取り組まうとする。 ・それぞれの個性を理解して尊重することができる。	・自ら自己課題の解決を求め、解決の成果を基に、新たな課題を設定して取り組まうとする。 ・それぞれの個性を理解して尊重することができる。	・「甲ノ原地区の歴史と未来」をテーマに、自分なりの課題をもって目的意識に向けて探究学習に取り組む。 ・自己理解を深め、ミソからの良さを伸ばし、社会や地域に貢献しようとする態度を養う。 ・地域における職場体験 ・刀鍛冶を招いて、鉄の加工技術や付加価値を創造する職業等についての学習 ・9年間の取組を踏まえた進路選択の取組	・「甲ノ原地区の歴史と未来」をテーマに、自分なりの課題をもって目的意識に向けて探究学習に取り組む。 ・自己理解を深め、ミソからの良さを伸ばし、社会や地域に貢献しようとする態度を養う。 ・地域における職場体験 ・刀鍛冶を招いて、鉄の加工技術や付加価値を創造する職業等についての学習 ・9年間の取組を踏まえた進路選択の取組
主な学習活動や取組	地域探検(生活科) 植物・作物の栽培(生活科) 収穫体験(生活科) 地域の方を講師にした取組(生活科)	農家見学・インタビュー(社会科) 地域の方を招いた講演(総合) 地域課題の発見(社会科・総合)	農家見学・インタビュー(社会科) 地域の方を招いた講演(総合) 地域課題の発見(社会科・総合)	課題に応じた解決案の立案(社会科・総合) 田植え・稲刈り・脱穀体験(総合) 地域の方を招いた講演(総合)	課題に応じた解決案の立案(社会科・総合) 田植え・稲刈り・脱穀体験(総合) 地域の方を招いた講演(総合)	「甲ノ原地区の歴史と未来」をテーマに、自分なりの課題をもって目的意識に向けて探究学習に取り組む。 自己理解を深め、ミソからの良さを伸ばし、社会や地域に貢献しようとする態度を養う。 地域における職場体験 刀鍛冶を招いて、鉄の加工技術や付加価値を創造する職業等についての学習 9年間の取組を踏まえた進路選択の取組	「甲ノ原地区の歴史と未来」をテーマに、自分なりの課題をもって目的意識に向けて探究学習に取り組む。 自己理解を深め、ミソからの良さを伸ばし、社会や地域に貢献しようとする態度を養う。 地域における職場体験 刀鍛冶を招いて、鉄の加工技術や付加価値を創造する職業等についての学習 9年間の取組を踏まえた進路選択の取組
総合的な学習の時間	特別活動		各教科		特別の教科 道徳		
・自分の思いや願いに即して課題を設定し、さまざまな方法を活用して課題を解決できるよにする。 ・各教科等との連携を明確にし、意図的・計画的にすすめる。	一人ひとりが自己有用感を持ち、楽しく生活できる学習をつくる。 ・様々な異年齢活動を通して、集団の一員としての自覚を深めるとともに、協力してよりよい生活を送ろうとする自主的な態度を養う。		・将来の職業生活に必要な基礎的知識の習得を図る。 ・様々な異年齢活動を通して、集団の一員としての自覚を深めるとともに、協力してよりよい生活を送ろうとする自主的な態度を養う。 ・教科学習の中で自己の能力・適性を知り、それを伸ばしていこうとする意欲を育てる。		・正しい価値観・勤労観の基盤を築くために、様々な内閣項目を意図的・計画的に授業を通して指導をすすめる。 ・自分らしい生き方について様々な角度から考えることができるよに学習を展開する。		
キャリア教育の実践的な活動推進のための主な関係機関							
学校運営協議会	PTA	甲ノ原地区青少年対策地区委員会	地元農家	地元養蚕農家			

## 取り組みに係る日程等

- 令和8年4月22日(水) 於 清水小学校
  - 甲ノ原グループの年間計画概要説明全体会
  - 分科会
  - 担当者会議(引取り訓練、防災訓練に向けて)
- 令和8年5月7日(木) 於 各学校
  - 引き取り訓練
- 令和8年7月 於 中野北小学校
  - 中学生による補習ボランティア
- 令和8年8月24日(月) 於 甲ノ原中学校
  - 地域連携防災訓練担当者会議
- 令和8年10月7日(水) 於 甲ノ原中学校
  - 地域連携防災訓練
- 令和9年1月20日(水) 於 中野北小学校
  - 授業参観
  - 分科会
  - 全体報告会
  - 担当者会議(次年度に向けて)
- ※その他  
キャリア教育について(下図)、3校で系統性を重視した教育計画を作成した。(R8年度より)

## <引取り訓練>

- チーフ:(清水小学校)
- メンバー:各学校引き取り訓練担当者

「学校防災マニュアル(地震災害編)」を基に、大規模地震発生時に児童生徒の安全を確保し適切な対応ができるよう対応訓練を実施する。本訓練は、防災マニュアルを明確にし、周知を図る機会とするとともに、マニュアルに沿って学校、保護者、地域が連携して訓練を行い、検証することをねらいとする。

## <地域と連携した防災訓練>

- チーフ:(甲ノ原中学校)
- メンバー:(中野北小学校)  
(清水小学校)

防災訓練の内容は、年度ごとに変更したり加えたりするなどの工夫を行う。昨年度は小学校6年生が甲ノ原中学校に行き、中学校2年生と縦割りのグループを組んで、AED や心肺蘇生などの防災訓練のコーナー回った。反省を生かしながら、消防署と連携して今年度の訓練内容を考えていく。